

金沢大学

産学官・知財関連レポート

2021



金沢大学

KANAZAWA
UNIVERSITY

先端科学・社会共創推進機構

Frontier Science and Social Co-creation Initiative

金沢大学 産学官・知財関連レポート 2021 目次

1. 金沢大学先端科学・社会共創推進機構について	1
・ 組織	1
・ 機構スタッフ紹介	2
2. 共同研究について	3
・ 共同研究件数・受入額（年度別）	3
・ 令和2年度 共同研究 分野別実施状況（311件）	3
・ 共同研究実施件数及び研究費受入額における個別実績（令和元年度）	4
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和元年度実績）」（抜粋）	
3. 令和2年度 共同研究一覧	5
4. 特許出願について	11
・ 発明届出・特許出願件数（年度別）	11
・ 令和2年度 特許出願 分野別内訳（53件）、教育研究職員 分野別割合	11
5. 令和2年度 公開特許出願一覧	12
6. 特許実施許諾について	13
・ 特許権実施等件数（外国分含む）（年度別）	13
・ 特許権実施等収入額（外国分含む）（年度別）	13
・ 特許権実施等件数及び収入における個別実績（令和元年度）	14
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和元年度実績）」（抜粋）	
7. ご案内	15
・ ワンストップサービス窓口、技術相談について	15
・ 金沢大学の研究シーズと特許技術の活用について	15
・ 協力会会員企業様向け支援について	15
・ 包括連携協定について	16
・ 共同研究について	17
・ 学術コンサルティング制度について	18
・ 共創型研究支援プロジェクトについて	19
・ 金沢大学認定ベンチャー制度について	20
・ 金沢大学先端科学・イノベーション推進機構協力会のご案内	21

1. 金沢大学先端科学・社会共創推進機構について

先端科学・社会共創推進機構は、基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援と、産学官連携により得られる研究成果の社会還元を促進するため、従来、研究推進及び産学連携・知的財産管理を担当していた先端科学・イノベーション推進機構と、地域社会との連携・課題解決を担当していた地域連携推進センターを統合し、2019年2月に発足しました。

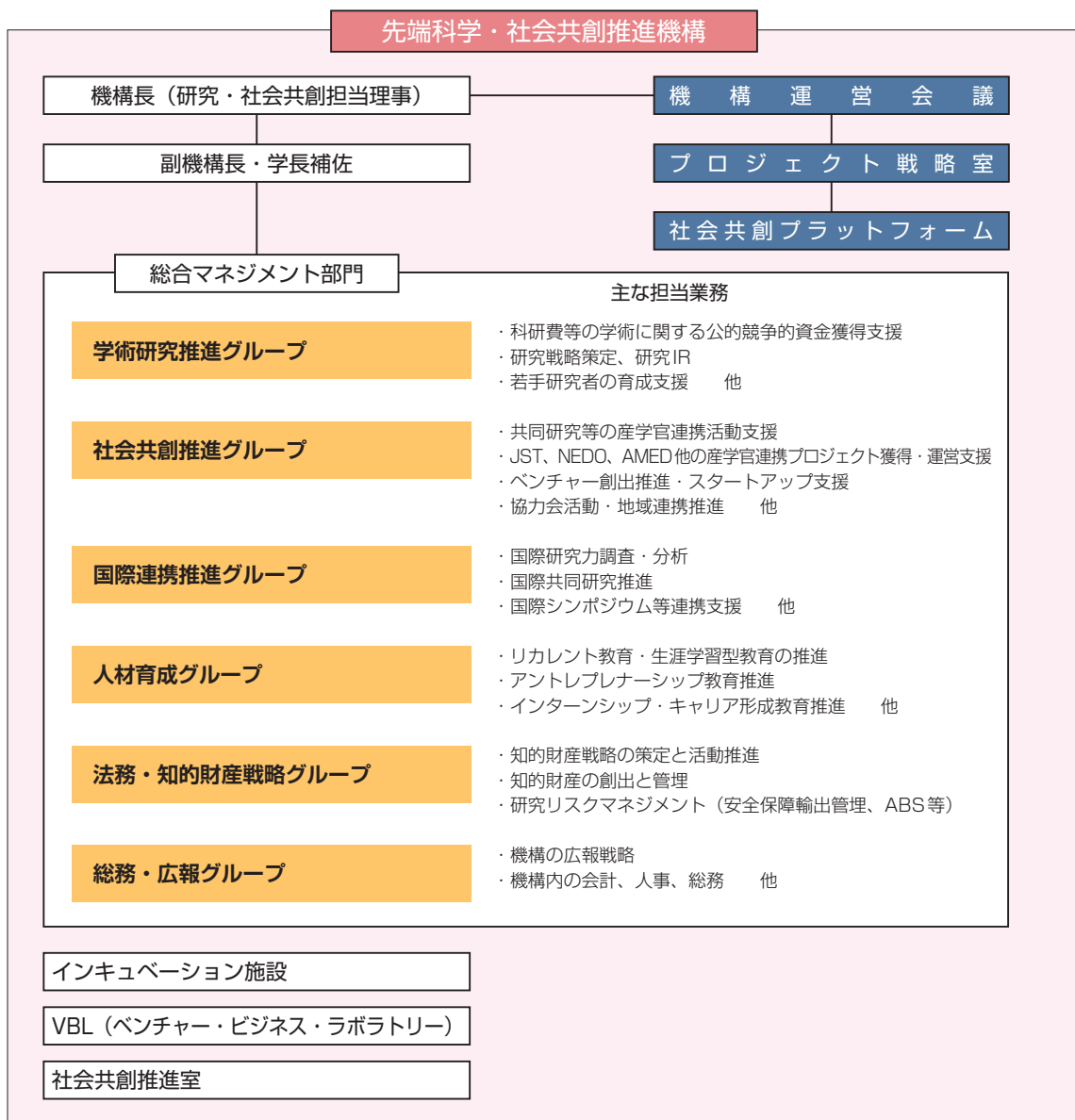
産学官連携推進においては、引き続き、研究成果の社会還元を促進し、もって本学の教育研究の活性化と社会貢献に資することを目的として活動いたします。

組織

本機構は、総合マネジメント部門と関連施設等で構成されます。

総合マネジメント部門は、教員、URAが複層的に各グループに所属し業務に従事します。併せて、本学の社会共創の核となる様々なプロジェクトに対し、総合マネジメント部門から複数の担当者を配置し、編成されたチームがプロジェクトの推進を支援します。

産学官連携推進活動や知的財産の権利化・活用推進は、主に社会共創推進グループと法務・知的財産戦略グループのメンバーが担当いたします。



機構スタッフ紹介

機構長

和田 隆志（理事（研究・社会共創担当）・副学長）

副機構長

山岸 雅子（理事（企画評価・情報担当）・副学長）

坂本 二郎（学長補佐（社会共創推進担当））

総合マネジメント部門

	副学長・担当副機構長・ 学長補佐	グループリーダー	担当
学術研究推進グループ	米田 隆（学長補佐）	稲垣 美幸（准教授）	樋口 明弘（特任准教授） 太田 一陽（特任准教授） 三島由美子（特任助教） 長谷川恵理（特任助教） 池田 虎三（特任助教）
社会共創推進グループ	坂本 二郎（副機構長） 長谷川 浩（学長補佐）	安川 直樹（准教授）	津田 武明（特任教授） 山田 秀尚（准教授） 平子 紘平（特任助教） 荒砂 茜（特任助教） 石川 桃絵（特任助教） 菅田恵理子（特任助教） 布川 正史（特任助教） 谿 雄祐（博士研究員） 宮ノ下智史（博士研究員） 善田 浩輝（主任）
国際連携推進グループ	田中 茂雄（副学長 （国際担当））	富澤 憲慈（特任教授）	佐藤 智哉（特任助教）
人材育成グループ	山岸 雅子（副機構長） 佐無田 光（学長補佐）	篠田 隆行（准教授）	淑瑠ラフマン（特任助教） 木下 靖子（特任助教） 岸岡 智也（博士研究員） 小林 秀輝（博士研究員）
法務・知的財産戦略グループ		目片 強司（准教授）	喜多 健太（特任助教） 野村 綾子（特任助教）
総務・広報グループ			

インキュベーション施設

施設長 長谷川 浩（学長補佐）

VBL（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）

VBL長 長谷川 浩（学長補佐）

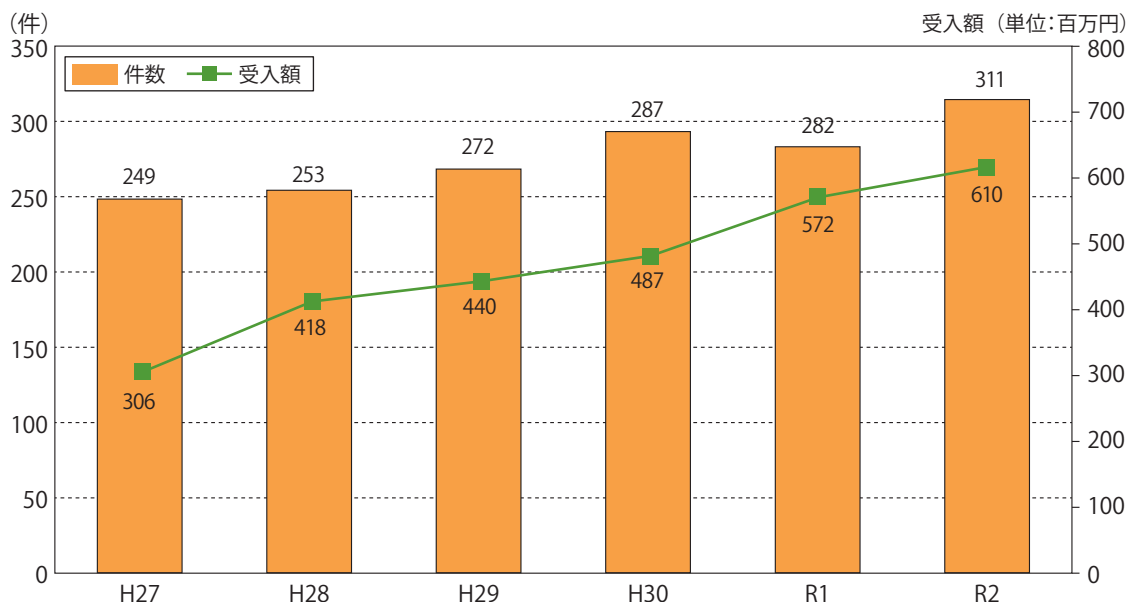
社会共創推進室

室長 佐無田 光（学長補佐）

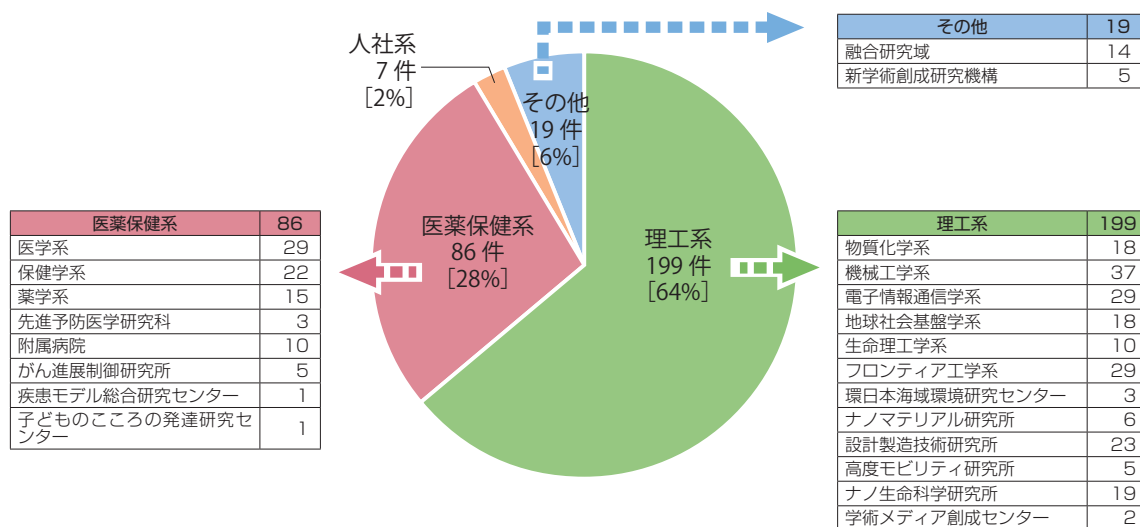
2. 共同研究について

本学での共同研究受入額は5年間で倍増しました。令和2年度は、全件数の64%が理工系、28%が医薬保健系に関連しておりました。

共同研究件数・受入額（年度別）



令和2年度 共同研究 分野別実施状況 (311件)



共同研究実施件数及び研究費受入額における個別実績（令和元年度）

民間企業との共同研究実施件数

No.	機関名	件数	区分
1	東京大学	1,953	
2	大阪大学	1,411	
3	東北大学	1,279	
4	京都大学	1,256	
5	九州大学	752	
6	東京工業大学	720	
7	慶應義塾大学	718	私
8	名古屋大学	705	
9	北海道大学	674	
10	早稲田大学	558	私
11	神戸大学	524	
12	信州大学	441	
13	筑波大学	426	
14	広島大学	424	
15	岐阜大学	391	
16	千葉大学	380	
17	東京農工大学	350	
18	山形大学	348	
19	名古屋工業大学	332	
20	岡山大学	325	
21	横浜国立大学	307	
22	三重大学	305	
23	熊本大学	303	
24	東京理科大学	296	私
25	徳島大学	284	
26	金沢大学	282	
27	大阪府立大学	278	公
28	静岡大学	253	
29	群馬大学	243	
30	九州工業大学	240	

民間企業との共同研究に伴う研究費受入額

(単位：千円)

No.	機関名	受入額	区分
1	東京大学	9,961,296	
2	大阪大学	9,214,452	
3	京都大学	5,543,439	
4	東北大学	4,538,033	
5	名古屋大学	3,821,009	
6	慶應義塾大学	3,285,761	私
7	東京工業大学	2,972,733	
8	九州大学	2,135,943	
9	筑波大学	1,707,730	
10	北海道大学	1,694,980	
11	早稲田大学	1,276,317	私
12	広島大学	1,166,605	
13	神戸大学	1,000,096	
14	順天堂大学	965,094	
15	山形大学	923,093	
16	東京医科歯科大学	776,157	
17	名古屋工業大学	739,840	
18	東京農工大学	736,508	
19	九州工業大学	722,223	
20	東京理科大学	678,925	私
21	千葉大学	675,574	
22	弘前大学	668,647	
23	信州大学	658,448	
24	長崎大学	629,950	
25	岐阜大学	617,496	
26	熊本大学	612,449	
27	金沢大学	572,343	
28	横浜国立大学	526,749	
29	徳島大学	484,418	
30	岡山大学	439,958	

※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和元年度実績）」（抜粋） ※上位30機関
 (注) 表中の区分において、無印は国立大学等、「公」は公立大学等、「私」は私立大学等を表す。

3. 令和2年度 共同研究一覧

下表は、令和2年度に契約された311件の産学官共同研究テーマの一部（169件）をご紹介します。共同研究を始める前の予備的検討として、「技術相談」を利用されることも効果的です。ご活用ください。また、本欄掲載以外の共同研究対応可能な教員につきましても、ご紹介させていただきますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

(公開分 169件) (各部局・系の50音順)

研究題目	受入部局	職	氏名
眼に優しい視線入力端末の開発	人間社会学域・研究域 人間科学系	教授	小島 治幸
繊維での身体影響の実証研究	人間社会学域・研究域 人間科学系	教授	増田 和実
庁内横断情報を基にした買い物弱者の見える化に関する研究	人間社会学域・研究域 経済学経営学系	教授	佐無田 光
UIターン人材による地域企業組織文化改革のためのリカレントプログラム開発と事業自走化の検討	人間社会学域・研究域 経済学経営学系	教授	佐無田 光
高断熱性能化のためのナノ中空ポリマー粒子の開発に関する研究	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	太田 明雄
水性作動液等の開発に関する研究	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
土壌の配合指針・評価方法・実地検証	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
海藻場における鉄の動態の評価手法に関する技術開発	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
近赤外吸収色素の開発	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	古山 滄行
近赤外線色素に関する共同研究	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	古山 滄行
高性能新規近赤外発光色素の開発	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	古山 滄行
ブルトニウム分析における環境負荷低減に向けた分析技術の導入	理工学域・研究域 物質化学系	教授	横山 明彦
熱/電気バッテリーで構築するエネルギーマネジメント技術	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	大坂 侑吾
二酸化炭素用吸着材の評価と温度スイング吸着操作への適用	理工学域・研究域 機械工学系	教授	児玉 昭雄
工作機械主軸の非接触動剛性測定法の開発	理工学域・研究域 機械工学系	助教	高杉 敬吾
渦電流ブレイキ型CDST用Halbach磁石配列の最適化	理工学域・研究域 機械工学系	助教	高杉 敬吾
「完全連続型の高せん断加工装置」のプロセスに関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
光硬化材料に関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
連続式高せん断加工装置を用いた、汎用樹脂からの不織布一貫生産プロセスの開発	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
二軸混練機における流動に関するデータ解析	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
プラスチックの成形技術に関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
二軸押出機の流動に関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
光硬化性樹脂の硬化メカニズムの解析と硬化条件の最適化	理工学域・研究域 機械工学系	教授	瀧 健太郎
延伸フィルムの延伸挙動の調査	理工学域・研究域 機械工学系	教授	田村 和弘
フィルム延伸の解析	理工学域・研究域 機械工学系	教授	田村 和弘
直接ギ酸形燃料電池の大型化に関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
ギ酸塩直接燃料電池に関する共同研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
CO2電解ギ酸生成に関する共同研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
フライアッシュ高含有ポーラスコンクリートの藻場造成材としての評価及び藻場造成技術の開発研究	理工学域・研究域 機械工学系	教授	三木 理
鉄鋼副産物活用による海域環境修復機構の解明	理工学域・研究域 機械工学系	教授	三木 理
製鉄排水処理に適用可能な微細藻類培養技術の開発	理工学域・研究域 機械工学系	教授	三木 理
金属3Dプリンタ製材料に関する強度特性研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	宮嶋 陽司
合成繊維の染色品質判定技術の研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	若子 倫菜
省エネルギー戦略に寄与する“ヘテロナノ”超高強度銅合金材の開発	理工学域・研究域 機械工学系	教授	渡邊 千尋
レーザーカッターの普及に向けた初学者向け指導マニュアルの開発	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	秋田 純一
デバイス製造に関するダイナミックエンジニアリングチェーンの構築	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	秋田 純一
マイクロ波プラズマによるプラズマ生成法と製造プロセスに関する研究開発	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	石島 達夫
Deep Learning映像処理技術の研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	准教授	今村 幸祐
FIR方式フィルタによる重量計測時間短縮に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	准教授	尾崎 光紀
PETボトルに対する電子線吸収線量シミュレーション	理工学域・研究域 電子情報通信学系	准教授	尾崎 光紀
高所作業車のタイヤ輪止めセンサー等、IoTを活用した新たな安全対策フルブルーの実現に向けた研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	北川 章夫
アーク解析用熱プラズマ物性データベース構築に関する共同研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
熱プラズマ照射によるポリマー繊維の耐アーク性検証と耐アーク性繊維の探索試験	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
熱的・反応非平衡ハイブリッドモデルの研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
数値解析によるSF6代替ガスの分解生成に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
電磁熱流体解析を用いたプラズマ切断用トーチの性能向上	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
気中消弧材料のアブレーション現象の検討	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
変調誘導熱プラズマと急冷ガス変動導入を組み合わせたナノ粒子大量生成法と非熱平衡プラズマによる粒子表面改質の検討	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
磁界中の真空アークの挙動把握に関する研究～粒子法MPSによるアーク内の金属蒸気挙動の数値解析～	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
自動運転車内に置ける乗客のコンテンツ視聴時の興味行動推定	理工学域・研究域 電子情報通信学系	准教授	南保 英孝
放射線シールドのシミュレーション評価	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	八木谷 聡
電磁波可視化システムに関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	八木谷 聡
電磁ノイズ源検出技術の開発(2)	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	八木谷 聡
静的ならびに動的荷重を受ける繊維補強無孔性コンクリートの破壊特性と防災施設への適用	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	准教授	栗橋 祐介
実験による落石防護柵の性能の検証と確認に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	准教授	栗橋 祐介
トラック隊列走行による道路交通振動の寄与に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
損傷を受けたコンクリート構造物内の鋼材の実応力測定に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
福井県道路橋梁の維持管理及びデータベースに関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
橋梁の振動抑制に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
下水道インフラを活用した新型コロナウイルス流行把握	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	准教授	本多 了
下水中の新型コロナウイルス検出手法の確立、及びその自動化、得られたウイルス濃度データの活用に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	准教授	本多 了
新型落石防護壁の性能評価に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎谷 浩
新型落石防護擁壁の性能評価に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎谷 浩
落石防護柵の性能評価に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎谷 浩
丸太を打設した地盤のN値・地盤性状の変化に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	宮島 昌克
マルチスケールな交通連携を想定した拠点配置と交通マネジメントについての技術研究開発	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	山口 裕通
パイルド・ラフト基礎設計技術の開発	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	熊 曦
越後白雪茸中の有効成分分析法の確立	理工学域・研究域 生命理工学系	准教授	坂本 敏夫
防火石を用いた改質水の植物への影響評価	理工学域・研究域 生命理工学系	准教授	坂本 敏夫
微生物ナノファイバースェルローズ (NFBC) に適した樹脂の探索および開発	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
イオン液体中でのセルローズ誘導体化の研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
バイオ由来の熱硬化性樹脂の開発に関する研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
オーガニック養殖技術を用いた水産物の開発・事業化研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	松原 創
ゴルフクラブとゴルフボールの衝突に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
磁気粘弾性エラストマを用いた新規デバイスについての共同開発	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
中低域を対象としたキャブ内空間振動騒音キャンセリング技術	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
磁気粘性コンパウンドに関する共同研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
建物点検ロボットの開発	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明
3次元重心検知によるフォークリフト横転防止システムの研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明
配電工事の効率化に資する工法改善の研究（ロボット開発）	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明
次世代車室空間の創出	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
多成分液滴の蒸発凝縮の分子動力学 (MD) シミュレーションに関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
機能性ナノミスト・エアゾルの生成とその応用	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
ナノサイズ オイルミストの捕集、除去に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
エアフィルタの微生物汚染と制御に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
空調フィルタにおけるフィルタコストと寿命の最適化	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
難分散粒子に適した前処理方法の検討	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	瀬戸 章文
オゾンバスの安全性と有効性に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	准教授	滝口 昇
脳由来神経栄養因子の活性化を導く低周波電気刺激の周波数帯の解明とその臨床応用	理工学域・研究域 フロンティア工学系	助教	西川 裕一
発光ナノカーボンの合成に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	准教授	比江嶋祐介
マイクロプラスチック生成機構の解明	理工学域・研究域 フロンティア工学系	准教授	比江嶋祐介
モデル学習機能の高精度化	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	山本 茂
陽子線がん治療の高度化	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
遺伝子発現解析と疾病診断	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一
非アルコール性脂肪肝における1年間の遺伝子発現変化のメカニズム解析	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一
消化器癌の新たな診断バイオマーカーとしてのラミニン γ 2単鎖の臨床有用性の評価研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一
臓器がんの新たな診断バイオマーカーとしてのEphA2関連分子の評価研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一
固相トランスフェクション法による培養細胞恒常性維持機構の研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	金子 周一
共同研究講座「消化器がん精密医療学共同研究講座」	医薬保健学域・研究域 医学系	特任教授	川口 和紀
ソレトン錠80(ザルトプロフェン製剤)の色素性絨毛性結節性滑膜炎及びその関連疾患に対する作用機序の解明及び他の腫瘍に対する基礎検討	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	土屋 弘行
ナノHAの機能向上開発	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	藤永由佳子
ボツリヌスHA複合体の粘膜免疫誘導能の研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	藤永由佳子
共同研究講座「社会薬物学共同研究講座」	医薬保健学域・研究域 医学系	特任教授	堀川 尚嗣
カバジタキセル耐性癌細胞株を用いたヒット化合物のin vitro探索	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	溝上 敦
前立腺がん患者のホルモン療法に伴う更年期様症状(のぼせ)に対するTJ-25桂枝茯苓丸の有効性及び安全性に関する探索的研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	溝上 敦
ヘルスケアビッグデータ解析	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	和田 隆志
腎疾患創薬標的候補分子の探索および機能解析	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	和田 隆志
低CO ₂ と低環境負荷を実現する微細藻バイオリファインリーの創出	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	國嶋 崇隆
ヒト血液脳関門薬物トランスポーターに関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
血清尿酸値維持に働く生理機構に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
近位尿管上皮細胞を用いた新規in vitro評価系の構築	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
開発化合物の加水分解に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	准教授	深見 達基
歯科用X線画像検出器のアプリの開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
フォトンカウンティング型X線イメージング検出器の特徴を生かした新しい診断画像の生成手法に関する基礎研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
フォトンカウンティング型歯科用X線画像検出器の開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
金属含有X線遮蔽シートの臨床利用法の基礎検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
通気性かつ弾力性を有するX線遮蔽体の開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
フォトンカウンティング検出器で取得された画像の検出器応答関数を考慮した物理解析アルゴリズムの開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
OSL線量計を用いた医療用放射線の線量評価技術の開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
抗リン脂質抗体症候群(APS)に対する新薬創成等を目的とした共同研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
血漿可溶性C-type lectin-like receptor 2 (sCLEC2)の臨床的有用性の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
先天性アンチトロンピン欠乏症のヘパリン結合能の測定法の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
リコンビナントATを用いたAT異常症の検出に適したパラメーター案の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
プロテインS活性測定に影響する要因の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
静脈血栓症の危険因子であるプロテインSK196E変異を持つ血漿タンパク質の検出法に関する研究II	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
人の労働環境と腰痛予防に関する研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	米田 貢

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
ウェアラブルデバイスを利用した高齢者の認知機能とバランス機能の評価法の開発と機能回復介入システムの構築	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	米田 貢
カルフィルゾミブを投与した多発性骨髄腫での8カラーフローサイトメトリー (EuroFlow法) による骨髄腫微小残存病変検出法の確立と既存検査法との臨床的意義の比較	融合研究域 融合科学系	講師	高松 博幸
工房見学・制作体験を通じたより良い“工芸文化の発信方法” -北陸3県の工房を中心に	融合研究域 融合科学系	准教授	丸谷 耕太
新野町地区の将来像-旧新野町小学校跡地利用を中心に	融合研究域 融合科学系	准教授	丸谷 耕太
受卵牛 (乳用牛) の繁殖性の調査	疾患モデル総合研究センター	准教授	堀家 慎一
高等教育機関用ICT活用教材の作成の最適化に関する調査研究	学術メディア創成センター	教授	佐藤 正英
悪性腫瘍に対する免疫療法に関する研究	がん進展制御研究所	教授	矢野 聖二
TP53機能喪失変異に起因する分子標的薬抵抗性を克服する研究	がん進展制御研究所	教授	矢野 聖二
LCMS用TDM試薬キット (免疫抑制剤) の評価	附属病院	教授	崔 吉道
認証技術を活用した医薬品トレーサビリティの研究	附属病院	教授	崔 吉道
医用電気機器の5Gを含む電磁障害調査法及び調査	附属病院	教授	長瀬 啓介
医療に係る統計情報プラットフォームの共同研究	附属病院	教授	長瀬 啓介
Exploring the interaction of vascular endothelial cells and liver CSCs	附属病院	准教授	山下 太郎
Exploration of the effect of PDGFRa blockade on liver cancer growth, metastasis, chemosensitivity, and tumor microenvironment	附属病院	准教授	山下 太郎
Streptomyces属放線菌に関する研究	新学術創成研究機構	准教授	柘植 陽太
塗装自動ティーチング	設計製造技術研究所	教授	浅川 直紀
研削加工に対応したツールパス生成に関する研究	設計製造技術研究所	教授	浅川 直紀
レーザー誘起湿式表面改質処理によるデンタルインプラントへの抗菌性付与	設計製造技術研究所	特任助教	江面 篤志
合成繊維紡糸設備内の空気流解析	設計製造技術研究所	教授	喜成 年泰
熱可塑性CFRPのプレス成形に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
熱可塑性CFRPの歯車成形に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
熱可塑性CFRPの鍛造に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
熱可塑性CFRPのトリミングに関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
熱可塑性CFRPの曲げ加工に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
サファイア単結晶のレーザー切断	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
AM (Additive Manufacturing) 装置による積層造形物の特性評価に関する調査研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
金属3D積層造形技術における雰囲気ガスの影響	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
高硬度金型内部の留まり穴内面加工に関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
積層造形技術に関する共同研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
金属光造形複合加工法に関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
金属AMのモニタリングに関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
クロムモリブデン系耐食Ni合金における積層造形に及ぼす粉体性状の影響	設計製造技術研究所	教授	古本 達明

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

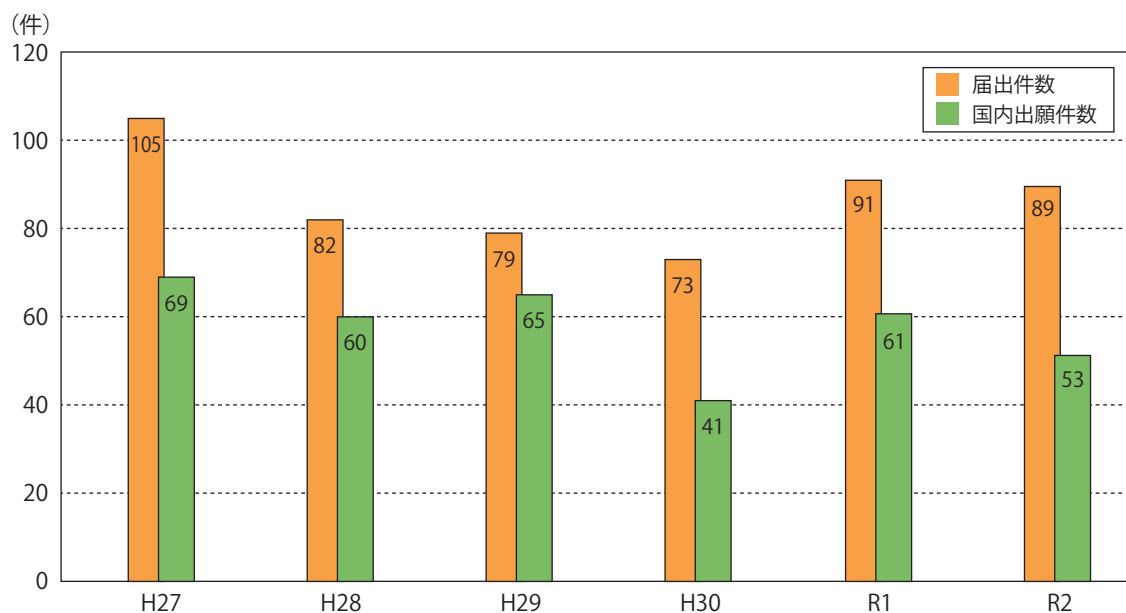
研究題目	受入部局	職	氏名
超高压焼結体ラウンドツールによる難削材の切削加工に関する研究	設計製造技術研究所	教授	細川 晃
高品質研削加工	設計製造技術研究所	教授	細川 晃
焼結材加工におけるNiの刃先温度に与える影響	設計製造技術研究所	教授	細川 晃
胃癌での炎症起因による浸潤転移メカニズムの解析	ナノ生命科学研究所	教授	大島 正伸
消化器がんにおけるPGE2/EP4シグナルの研究	ナノ生命科学研究所	教授	大島 正伸
マウス大腸癌モデルに関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	大島 正伸
ヒト加水分解酵素が触媒する反応に関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	中島 美紀
人工エクソソームに関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
IEP1複合体を用いたEVエンジニアリングに関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
エクソソーム放出制御技術に関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
セルロースの高機能化	ナノ生命科学研究所	教授	前田 勝浩

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

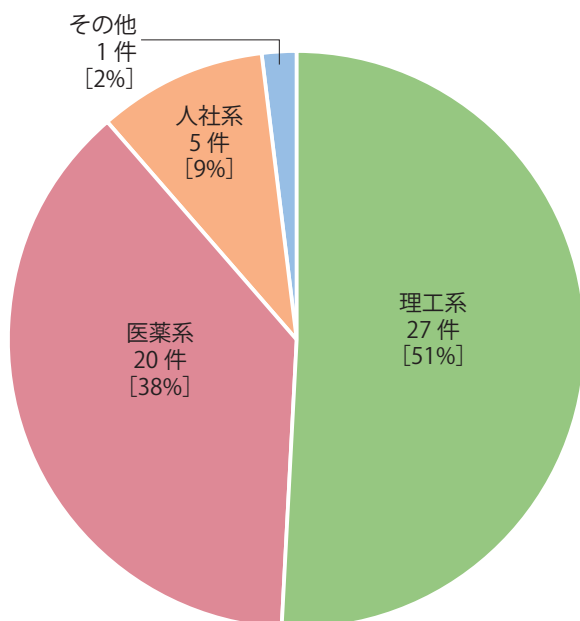
4. 特許出願について

令和2年度は、大学からの出願53件以外に、出願前に共同研究先に有償譲渡した共同研究関連発明が13件ありました。

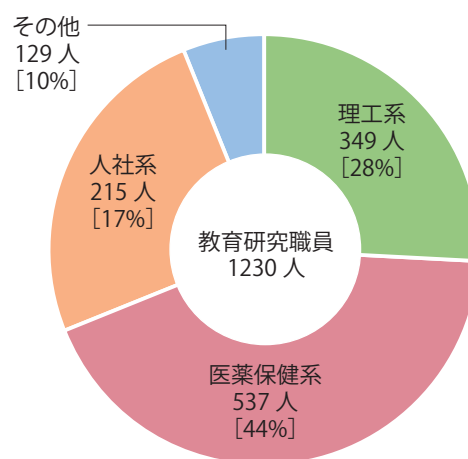
■ 発明届出・特許出願件数（年度別）



■ 令和2年度 特許出願 分野別内訳（53件）



■ 教育研究職員 分野別割合



(令和3年5月1日現在)

5. 令和2年度 公開特許出願一覧

下表は、令和2年度（2020年4月1日～2021年3月31日）に公開された特許出願で、共同出願も含まれます。出願内容は特許庁のJ-PlatPat（特許情報プラットフォーム）から見る事が出来ます。

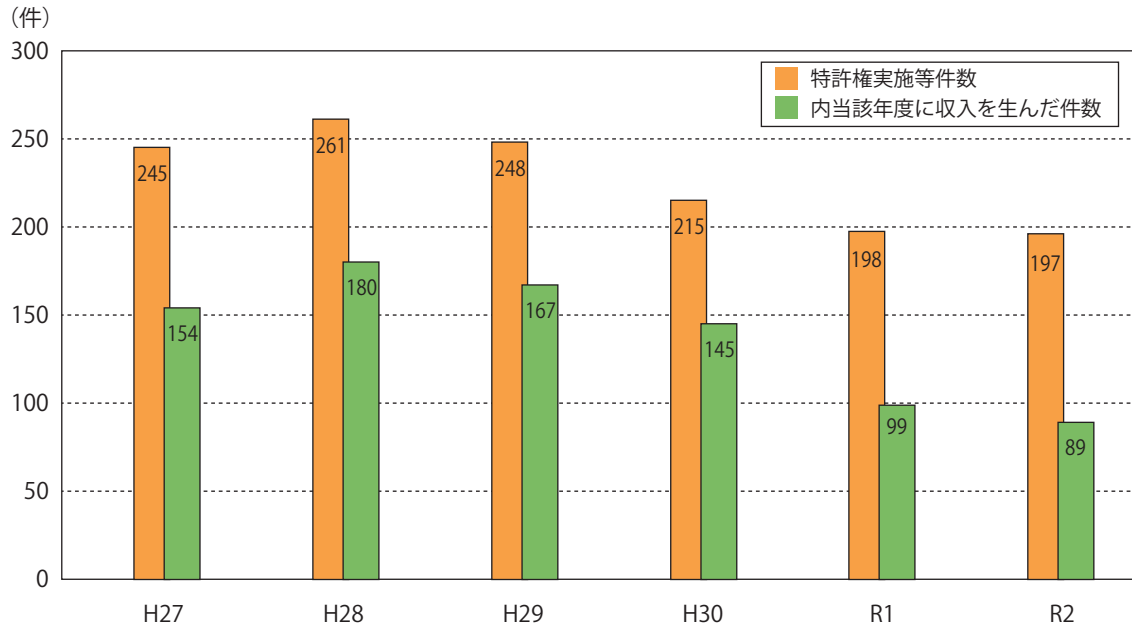
発明の名称	公開番号
マウントブッシュ	特開2020-060209
マウントブッシュ	特開2020-060208
磁歪材料の特性測定方法及び磁歪材料の特性測定装置	特開2020-063997
子宮癌の発症、転移又は再発の予測方法	特開2020-071205
原発性アルドステロン症の検査方法	特開2020-071030
ダイヤモンド基板及びダイヤモンド自立基板	特開2020-073447
発電素子及びアクチュエータ	特開2020-078237
放射線線量計	特開2020-076729
末端に置換基を有する立体規則性置換ポリアセチレンの製造方法	特開2020-125460
プラズマ処理装置およびプラズマ処理方法	特開2020-136199
末梢セロトニンまたは腸内芳香族アミンの増加を伴う疾患の予防または治療用医薬組成物および末梢セロトニンまたは腸内芳香族アミンの増加を伴う疾患の予防または治療用薬剤のスクリーニング方法	特開2020-132558
薬物代謝機能測定方法	特開2020-134272
肝臓がん発症リスクの判定方法、肝臓がん発症リスクの判定キット、及び医薬組成物	特開2020-130013
悪性の膵胆道系疾患を有するか否かを判定するためのデータ収集方法及びキット	特開2020-141664
多糖類誘導体の製造方法、及びリグニン誘導体の製造方法	特開2020-143260
多糖類誘導体の製造方法、及びリグニン誘導体の製造方法	特開2020-143250
MHCクラスII拘束性エピトープペプチドを含有する免疫増強剤	特開2020-147551
ヌクレオチド除去修復阻害剤、それを含有する腫瘍治療の増強剤及び抗腫瘍剤	特開2020-152697
脂肪由来幹細胞シート由来の骨三次元構造体及び該構造体の作製方法	特開2020-162565
作業機械用カッティングエッジ、作業機械用ブレードおよび作業機械	特開2020-165093
回折環による応力解析方法	特開2020-173191
微小空間の加温方法及び発熱体	特再公表W019/026610
卵巣癌の検出方法及び卵巣癌治療剤	特開2020-176905
HLAクラスIアレレル欠失血球の検出方法	特開2020-184992
ヘマグルチニン複合体タンパク質及びその用途	特再公表W019/103111
細胞傷害性T細胞の作製方法	特開2020-195379
車両の自己位置推定装置、及び車両	特開2020-204501
金型、成型システムおよび金型製造方法	特登-06811454
走査型プローブ顕微鏡およびZ駆動装置	特開2021-004859
魚病の予防及び治療剤	特開2021-004195
がんのバイオマーカーおよびがんの発症を判定する方法	特開2021-004740
融合タンパク質、物質製造方法、ベクター、形質転換細胞、空気入りタイヤの製造方法及びゴム製品の製造方法	特開2021-013365
オペランド計測を可能とした走査型イオンコンダクタンス顕微鏡	特開2021-018147
がん幹細胞の自己複製阻害剤及びSTAT3のリン酸化阻害剤	特開2021-020875
微細加工された酸化物の膜の形成方法	特開2021-026062
コンクリート構造物用水分センサおよび水分量検出方法	特開2021-025793
水素分離合金	特開2021-031733
電気生理学的解析を可能にした原子間力顕微鏡	特開2021-032725
マニピュレータ機能付き原子間力顕微鏡	特開2021-032583

(39件)

6. 特許実施許諾について

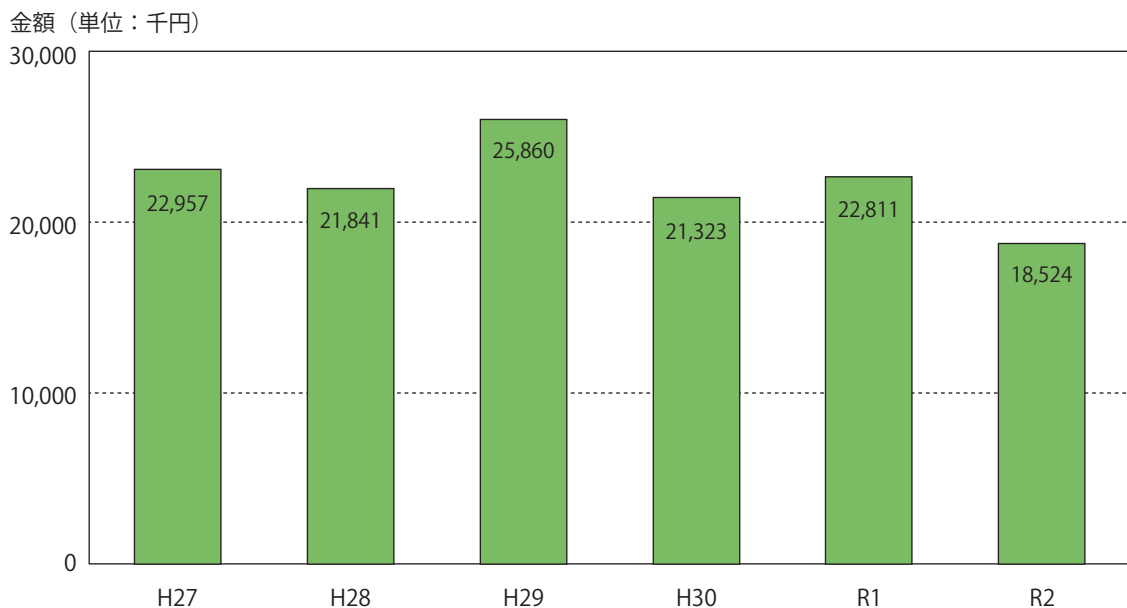
学外の技術移転会社金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO）と連携しながら、技術移転活動を推進しています。

■特許権実施等件数（外国分含む）（年度別）



※特許権実施等件数とは、各年度で有効な実施許諾又はその年度に譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の件数を指す。（契約に含まれる国内、外国特許の総数）

■特許権実施等収入額（外国分含む）（年度別）



■ 特許権実施等件数及び収入における個別実績（令和元年度）

■ 特許権実施等件数（外国分を含む）

No.	機関名	件数	区分
1	東京大学	3,777	
2	京都大学	1,919	
3	関東学院大学	1,104	私
4	大阪大学	1,035	
5	北海道大学	1,023	
6	東京工業大学	750	
7	名古屋大学	664	
8	九州大学	530	
9	信州大学	389	
10	慶應義塾大学	374	私
11	広島大学	326	
12	東北大学	316	
13	早稲田大学	265	私
14	岡山大学	240	
15	神戸大学	229	
16	東京理科大学	209	私
17	九州工業大学	206	
18	金沢大学	198	
19	千葉大学	187	
20	日本大学	186	私
20	東京医科歯科大学	185	
20	筑波大学	167	
23	東京農工大学	163	
24	熊本大学	158	
24	富山大学	154	
26	群馬大学	149	
27	豊橋技術科学大学	133	
28	香川大学	125	
29	久留米大学	124	私
30	横浜市立大学	122	

※特許権実施等件数とは、実施許諾又は譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の数を指す。（契約に含まれる国内、国外特許の総数）

■ 特許権実施等収入（外国分を含む）

(単位：千円)

No.	機関名	収入額	区分
1	京都大学	676,397	
2	東京大学	661,761	
3	大阪大学	458,046	
4	東北大学	131,355	
5	三重大学	110,123	
6	北海道大学	105,788	
7	名古屋大学	100,652	
8	東京医科歯科大学	89,280	
9	東京工業大学	77,861	
10	九州大学	76,781	
11	神戸大学	71,136	
12	日本大学	70,299	私
13	慶應義塾大学	45,661	私
14	千葉大学	44,653	
15	熊本大学	40,099	
16	名古屋市立大学	38,914	公
17	愛媛大学	29,545	
18	山口大学	29,346	
19	広島大学	27,659	
20	筑波大学	26,216	
21	信州大学	25,991	
22	東京理科大学	25,979	私
23	九州工業大学	25,023	
24	近畿大学	24,121	
25	金沢大学	22,811	
26	岡山大学	22,619	
27	埼玉医科大学	20,075	私
28	関西学院大学	18,672	私
29	関東学院大学	17,941	私
30	早稲田大学	17,878	私

※特許権実施等収入額とは、実施許諾又は譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の収入額を指す。

※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和元年度実績）」（抜粋） ※上位30機関
 (注) 表中の区分において、無印は国立大学等、「公」は公立大学等、「私」は私立大学等を表す。

7. ご案内

金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、地域産業界との連携を通して、イノベーションに貢献します。企業様の抱える技術的課題に関するご相談や共同研究に関するご相談を随時受け付けております。

ワンストップサービス窓口、技術相談について

企業様からの、技術相談、学術コンサルティング、共同研究、受託研究など、様々なご相談を当窓口で、随時受け付けております。URAがお話を伺い、学内の最適な連携の方法、研究者をご紹介いたします。

ワンストップサービス窓口

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/contact/>



ワンストップサービス窓口のご利用、及び、技術相談の流れ

原則として無料の事前相談を1回実施の上で、1～2時間程度の技術相談を1～2回実施します。

事前相談 (無料)

URAが企業様の抱えている課題について伺います。その内容に応じて、学内で最適の研究者を探し、研究者を交えた技術相談を設定します。

技術相談 (相談実費をご負担いただく場合があります)

研究者とURAが参加して、企業様の技術的課題を整理し、技術課題に対する対応策について議論・アドバイスします。内容によっては、学術コンサルティング制度や共同研究のご案内も致します。

金沢大学の研究シーズと特許技術の活用について

研究シーズデータベース

金沢大学の人文系・理工系・医薬系の全領域の研究シーズをフリーワードで検索できるデータベースを公開しています。ご利用ください。



<http://ridb.kanazawa-u.ac.jp/seeds/>

金沢大学 シーズ データベース

検索

特許技術の活用のご相談 (KUTLO)

金沢大学で創出された特許の活用について、金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO) がお手伝いします。上記技術相談と合わせて、お気軽にご相談ください。



(例：金沢大学特許で開発された空間磁界可視化システム)

KUTLO 金沢大学TLO

<http://kutlo.co.jp/>
info@kutlo.co.jp

協力会会員企業様向け支援について

金沢大学では、「先端科学・イノベーション推進機構協力会」の会員企業様向けに、技術相談に対する支援を行っております。

これは、技術相談に係る相談実費の一部(年間3万円限度)を協力会が負担するもので、会員企業様には大変有利な制度です。

■協力会に関するお問い合わせ先

金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構協力会
〒920-1192 金沢市角間町
Tel : 076-264-6109 Fax : 076-234-4019
E-Mail : kyouryokukai@adm.kanazawa-u.ac.jp

包括連携協定について

金沢大学では、個別の研究課題に限った企業様との交流だけではなく、「組織 対 組織」で幅広く交流して、ともに課題解決を図る産学連携包括連携協定による企業様との交流も進めています。

産学連携包括連携協定締結先一覧

企業名	協定締結日
株式会社小松製作所	平成17年11月9日
澁谷工業株式会社	平成20年5月12日
北陸電力株式会社	平成24年2月10日
株式会社PFU	平成27年2月18日
株式会社日本政策金融公庫 金沢支店	平成29年1月31日
トヨタ紡織株式会社	平成30年3月1日
株式会社ダイセル	平成30年7月30日
日本高速道路株式会社金沢支社	平成31年2月28日
株式会社アクトリー	令和3年4月23日



株式会社アクトリー様との協定締結式

産学連携包括連携の取り組みとメリット

【主な取り組み内容例】

- ①技術相談等を通じた研究開発上の意見交換・指導助言。
 - ②共同研究や受託研究による研究開発。
 - ③技術教育とそれにかかる講師派遣等の人的な交流。
 - ④インターンシップの受け入れ、企業様情報の提供等学生に関する支援・協力。
- 年2回程度、相互の役員や部局長も参加する連携推進会議を開催。

【包括連携のメリット】

- ①個々の研究室レベルではなく、役員・部局長をトップに据えた“組織-組織”の関係へ。
- ②URA（リサーチアドミニストレーター）や本部事務局を交えたニーズ・シーズマッチング。
- ③人文系や医薬系も含めた総合大学としての強みの活用。

産学連携包括連携の成果の一例

北陸電力：「補助型ロボット（アシストアーム）の研究」の実用化。

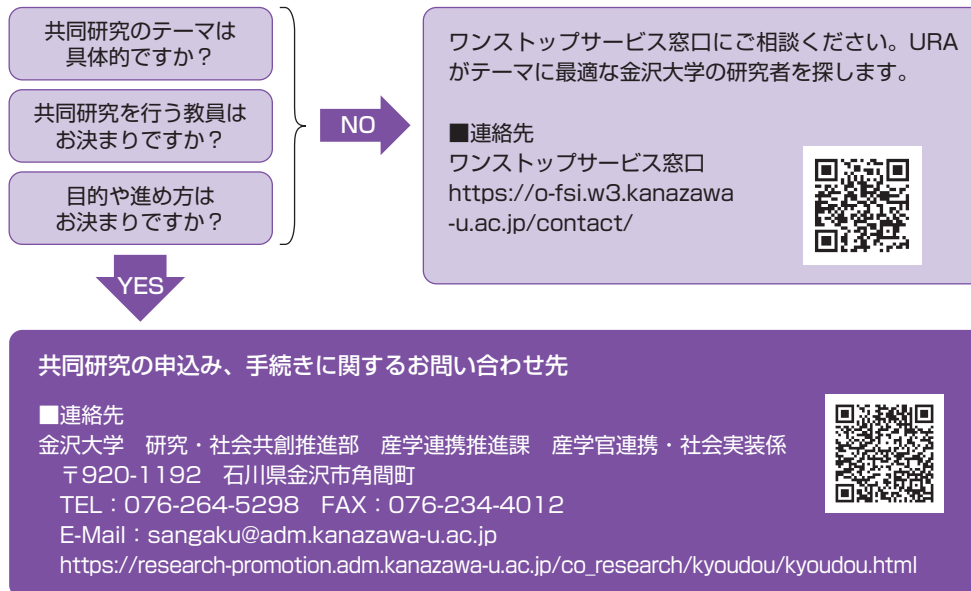


電力会社の配電工事現場（高所作業車）での補助員の省力化と効率化の課題。

- ①URAを介して、企業様のニーズを聞き取り、ロボット工学の研究シーズとマッチング。
- ②企業様の現場と機械工学系の研究室とで共同研究に着手。
- ③特許の共同出願を通して、試作機を作成。実用化へ。

共同研究について

企業様等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度です。
共同研究を行う上で、テーマ・担当教員・進め方等が具体的にお決まりでない場合は、先端科学・社会共創推進機構にご相談ください。URAが、最適な研究者を探します。



1. 共同研究の形態

企業様等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行うタイプの『派遣型』、
本学の教員と企業様等の研究者が、共通の研究課題について研究を分担し、それぞれの施設において研究を進めるタイプの『分担型』があります。

2. 共同研究に必要な経費

研究料（企業様等の研究者の受け入れに必要な経費）、直接経費、間接経費をご負担いただきます。
文部科学省および経済産業省が策定した「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」（2016年11月）に対応すべく、下記のとおり人件費、間接経費の基準を改訂いたしました。

- ①共同研究担当教員等人件費のアワーレートによる積算方法の導入。
- ②管理運営費（間接経費）を直接経費の20%に改定。
- ③包括連携など組織対応型の共同研究には戦略的産学連携経費の加算。

3. 知的財産権の取り扱い

通常の場合、企業様等と本学の発明完成への貢献度を踏まえた持分による共有となります。
共有の知的財産権について、共有者である企業様等は、本学に、当該知的財産権の出願時に優先的に譲渡又は実施権（独占的实施権、非独占的实施権）の許諾を求めることができます。

4. 本学への申込時期

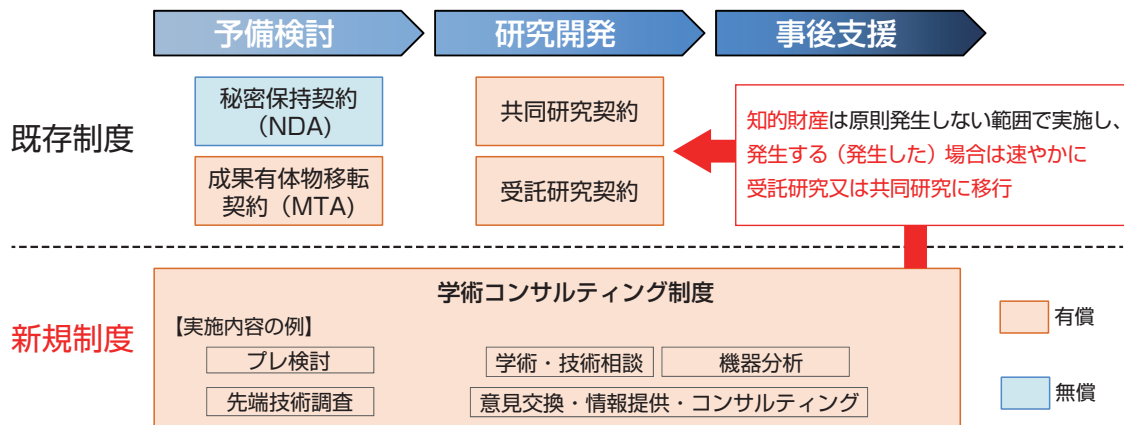
随時可能です。

5. 研究期間

複数年にわたって契約することも可能です。

学術コンサルティング制度について

金沢大学では、2021年4月に学術コンサルティング制度を新設しました。本制度は、企業様からの委託を受けて、金沢大学の教職員等が専門的知識に基づき、委託企業様の学術上の課題解決等について助言等を行うものです。本制度は、受託研究、共同研究、兼業等といった既存の制度に当てはまらない産官学連携業務に対し、実態にあった契約ができる新たな制度の設置を目的としています。



1. 学術コンサルティングに係る費用

直接経費
指導料：2万円以上／時間（1時間単位） ※実施者が使用する少額の消耗品費や軽微な必要経費を含む 指導料の他、別途必要となる経費： 旅費、機器利用・管理料、協力者の人件費など実施者の指導料以外に特に必要な費用
間接経費
直接経費の30%（外国企業様が委託者の場合は40%）

2. 申込みと契約手続き

学術コンサルティングを実施する教員（担当教員）と、内容や学術コンサルティング料について事前打合せをお願いします。内容等が決まりましたら、「学術コンサルティング申込書兼受諾書」を担当教員（複数いる場合は代表教員）の所属する部局の事務部担当係へご提出ください。なお、期間に最短の制限はなく、最長3年（変更契約後の期間も含む）としています。



契約金額（間接経費、税込）	契約形態
100万円未満	原則、約款による契約（ 契約内容の修正不可 ）
100万円以上、300万円未満	約款による契約、または 契約内容の協議及び契約書の締結可
300万円以上	共同研究又は受託研究での契約を検討 ※やむを得ず学術コンサルティング制度を用いる場合は 契約書の締結 とする

共創型研究支援プロジェクトについて

金沢大学は、2017年度までの5年間、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に取り組みました。人間社会、理工、医薬保健の3研究域を横断した異分野融合体制で、風土・住民特性に即した予防医療や健康増進、老朽化した社会インフラの整理統合・多機能化、地域の産業・雇用を支える地域内経済循環の促進など、地域の持続的発展を目指した研究活動を進めてきました。2018年度から本学先端科学・社会共創推進機構内に、異分野融合研究推進を通じて研究拠点形成を目指す「共創型研究支援プロジェクト」を創設しています。

本プロジェクトでは、これまで進めてきた様々な地域志向研究活動を基礎に、多様な諸課題の関係性をふまえて、地域のステークホルダーとの対話・協働の場を創出し、地域の総合的な課題解決を目指した異分野融合研究の推進、社会実装を目指します。

地域課題解決のために本学との共同研究をご希望される自治体様や、研究域を横断する異分野融合研究の課題をお考えの研究者からのお問い合わせをお待ちしております。

新規支援プロジェクトの募集

■目的

共創型研究支援プロジェクトは、課題解決のため、研究域を横断するボトムアップ型異分野融合研究を推進し、自治体様、企業様、他大学、学外研究機関等との連携により研究成果の社会実装の展開を推進することを目的としています。

■対象

- ・異分野融合型地域課題解決のために本学との共同研究をご希望される自治体様、企業様
- ・研究域を横断する異分野融合研究の課題をお考えの研究者

■支援の概要

本プロジェクトの支援内容は以下の通りです。

- ・自治体様、企業様と異分野にまたがる学内外研究者との連携に向けたマッチング支援
- ・研究成果のフィードバックや、社会実装に関する相談と調整
- ・データ提供・取り扱いや調査実施等に関する調整や契約行為に関する支援
- ・異分野融合研究のための外部資金獲得に向けた取組や事務局機能の支援

※なお、支援内容に予算措置等資金的な支援は含まれていません。

■支援対象活動の募集・選定

学内外の皆様からの相談は随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

支援対象とするかは、先端科学・社会共創推進機構内に設置された共創型研究支援プロジェクト委員会（以下、委員会）で検討します。

委員会にて選定されれば、共創型研究として、活動内容に関する情報を共有し、支援に向けた方向性を検討します。

■支援対象プロジェクトの報告等

支援対象プロジェクトに関しては、委員会や報告会等で、進捗・成果等について報告をお願いする場合があります。

■お問い合わせ先、相談窓口：ワンストップサービス窓口

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/contact/>

金沢大学認定ベンチャー制度について

令和3年度に「金沢大学認定ベンチャー」制度を開始しました。金沢大学の研究成果や知的財産権を活用して起業した法人（準備中の方を含む）に対して、円滑な事業実施のため支援し、研究成果の社会実装と本学の研究の進展をはかります。認定を受けると、ロゴマークの使用のほか、本学が協定を有する公的機関や金融機関への紹介や経営指導・助言などの支援を受けることができます。

「金沢大学認定ベンチャー」の要件

本学の研究成果を活用して起業した法人のうち、次の各号すべてに該当するもの。申請の日から1年以内に、次の各号すべてに該当する予定がある場合も申請できます。

- (1) 本学の役職員又は学生（在職又は在学していた者を含む。）が、本学において習得した技術、知識等を利用して設立した法人。
- (2) 本学から知的財産権の実施許諾を受けている法人。
- (3) 会社法により設立された法人。



金沢大学認定ベンチャーロゴマーク



第一回 称号授与式（令和3年9月29日）

金沢大学認定ベンチャー 一覧（令和3年10月1日現在）

(1) 株式会社キュービクス 創業：2004年創業。石川県白山市 事業：マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析サービス、など。 https://www.kubix.co.jp/
(2) 株式会社バイオセラピー開発研究センター 創業：2006年創業。石川県金沢市 事業：バイオテクノロジーに基づく食品・医薬品素材の研究開発、など。 http://www.biotherapy.co.jp/
(3) Ostics株式会社 創業：2019年創業。石川県金沢市 事業：骨密度検査に関わる業務、など。
(4) 株式会社Kanazawa Diamond 創業：2020年12月創業。石川県金沢市 事業：ダイヤモンドの製造、加工及び販売、など。 https://kanazawadiamond.co.jp/

金沢大学先端科学・イノベーション推進機構協力会のご案内

金沢大学先端科学・イノベーション推進機構協力会は、金沢大学先端科学・社会共創推進機構の事業を支援し、金沢大学と産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流を進めることを目指し設立された団体です。

本会は、地域の産業や地域社会が抱える課題の解決に大学との協働により、積極的に取り組む企業様（特別会員）と金沢大学が行う各種活動を支援し、産学連携と相互の日常的な交流を進めることを目指す企業様、業界団体等（一般会員）で構成されております。

1. 協力会概要

【会員】 本会の事業に賛同する企業様、業界団体様等（約100機関、うち特別会員は19社）

【会費】 年1口3万円（特別会員は10口以上）

※R2～3年度はコロナによる活動のオンライン化にとまない半額

【設立】 平成13年7月

2. 活動

① 全会員対象の活動

- ・ 総会、イノベーションシンポジウムと懇親会の開催（年各1回）
- ・ 研究室見学会の開催（年3回程度実施）
- ・ 技術相談の実費の支援（年3万円まで）
- ・ 本学が出展する展示会、主催する新技術説明会等のイベント情報の発信
- ・ 刊行物の発送（シーズ集、産学官・知財関連レポート等）

② 特別会員対象の活動

- ・ 特別セミナー、地元企業様の工場見学、懇親会の開催
- ・ 金沢大学の若手研究者奨励賞の授与

3. 入会のメリット

- ① セミナー、イベントでの金沢大学の教員との交流や、送付する刊行物を通じて、大学での研究活動の状況等をご理解いただけます。共同研究、技術相談をご検討時の参考になります。
- ② 有益な公的資金情報をご紹介すると同時に、資金獲得に向け大学との連携の検討等を含め申請のサポートをいたします。
- ③ 専門知識を必要とするご相談には、技術相談が有効です。最適な教員をご紹介し、対応させていただきます。会員企業様には、技術相談の実費の一部を、協力会よりサポートさせていただきます。
- ④ 協力会HPでは、大学から企業様へのご案内（技術研究情報・イベント・セミナー等）だけでなく、企業様自身のイベント案内にもご利用いただけます。 ※営利目的でのご利用はご遠慮ください。
- ⑤ 協力会HPから会員企業様HPをリンク掲載し、ご紹介いたします。簡単な企業様のPRも一文掲載可能ですので、お気軽にご相談ください。

■協力会に関するお問い合わせ先

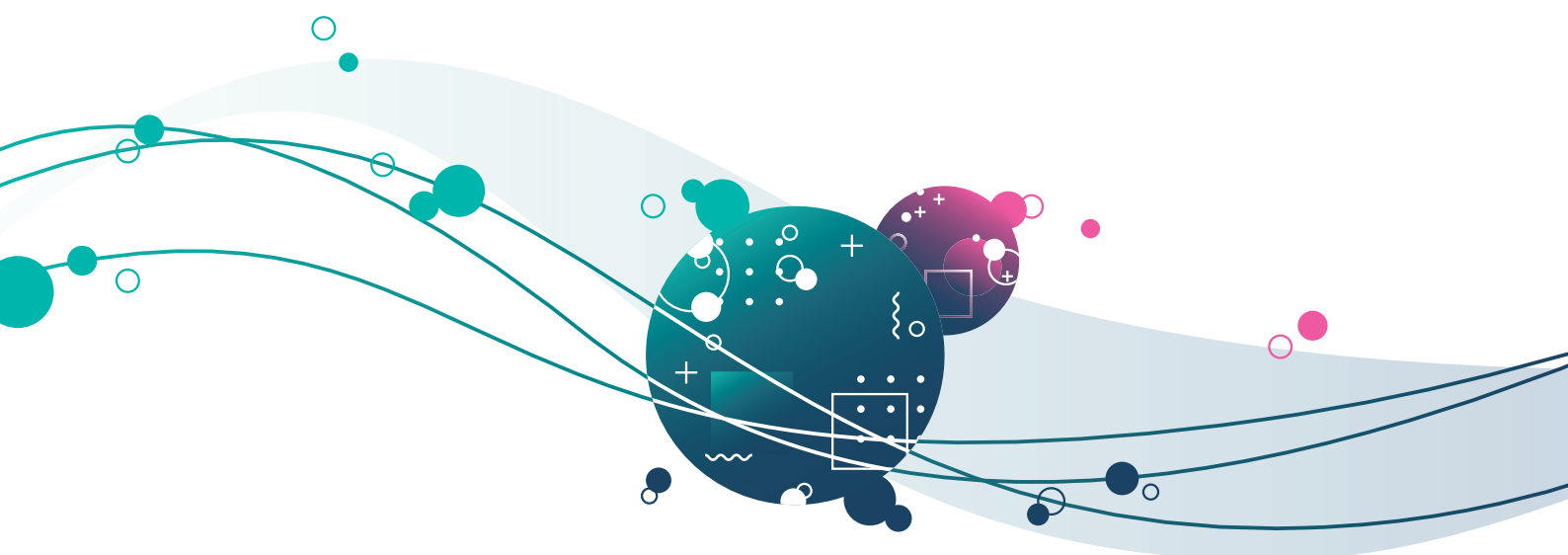
金沢大学先端科学・イノベーション推進機構協力会

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel : 076-264-6109 Fax : 076-234-4019

E-Mail : kyouryokukai@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL : <http://www.innov-kyouryokukai.com/>



(連絡先)

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構

〒920-1192 金沢市角間町

T E L : 076-264-6111

F A X : 076-234-4019

E-Mail : o-fsi@adm.kanazawa-u.ac.jp

U R L : <https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



(2021年10月発行)